

安倍政権・辺野古工事強行一ヶ月停止

今こそ、新基地建設断念へ

てをゆるめてはならない

9/12<sup>土</sup>  
国会包囲  
14:00~



沖縄の海の「青」で  
包囲しよう！

青いTシャツや帽子・スカーフなど、  
青いものを身につけてお越しください

9月10日からの工事再開を許さない

協力

戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

問い合わせ

沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック (090-3910-4140)

沖縄意見広告運動 (03-6382-6537)

ピースボート (03-3363-7561)

止めよう！ 辺野古埋立て9・12国会包囲実行委員会

<http://humanchain.tobihiro.jp/>

報道されていますように、菅官房長官は今日（8／4）午前の記者会見で、「米軍普天間飛行場の辺野古移設計画について、今月10日から9月9日までの1ヶ月、移設計画にかかる一切の工事を停止し、県と移設問題について集中的に協議する」と発表した（琉球新報8／4(火)号外）。そして、県が求めている臨時制限区域への立ち入り調査を認める方針も述べた。同時に「普天間の危険性除去と辺野古移設に関する政府の考え方や沖縄県の負担軽減を目に見え形で実現したいという取り組みをあらためて丁寧に説明したい」とも述べた、とのこと。

一方、翁長知事は10：45過ぎ県庁で会見し、「話し合いで解決の糸口探れるのであれば、その努力は惜しまない。（協議を通し）政府には『辺野古が唯一だ』とこだわらないようになってほしい。その意味では重要な期間になる。対話の道が開けて、工事がストップしたということは（移設問題解決に向けた）前進だ」と述べた（琉球新報8／4(火)号外）。

このように、安倍政権と翁長県政は「辺野古問題」で一ヶ月間政治休戦することになりました。

このことで明らかになったことは、この間、安倍政権が、事ある毎に「この夏から本体工事を開始する」と強弁してきたことができなくなったこと、そのことは安倍政権が全国的な「戦争法案廃案」などの闘いの高揚で追い込まれてきていることの証左です。一方では同時に、安倍政権は「辺野古」を諦めてないということも表明しています。全ての政治休戦と同様にこの休戦期間に体勢を立て直して休戦明けに襲いかかって来るとも想定しなければなりません。**今手を緩める方が負けです。「戦争法案廃案」の闘いとも連動し、安倍政権の足腰を叩きのめしましょう！**

ご承知の通り、安倍政権は「辺野古問題」を当初（去年の夏の段階）では即決戦で沖縄県民の闘いを押さえ込まんとしてきました。大浦湾と辺野古の海に臨時制限区域を一方的に設置して海を県民から強奪し、「侵入者」を刑特法で弾圧すると言いつらしました。そして、そこを海保の19隻の巡視船で囲い込み、その内側では13隻の警戒船と35隻のゴムボートでかき回し、沖縄戦の米艦船を想起させる態勢で県民の海での抗議行動を押さえ込まんとしてきました。この間の県内2紙の報道でも明らかなおと、県民のカヌーや抗議船を転覆させるなどという前代未聞の蛮行（テロ）をふるい、県民に死の恐怖心を与えて、抗議行動を抹殺せんとしました。同時に、ゲート前でも山形鉄板に象徴されるようにケガの恐怖を与えて、海上と同様に抗議行動を崩壊させようとしてきました。

しかし、県民は驚異的な粘り腰と山城博治代表の硬軟両用の戦術展開で屈服せずに逆に弾圧をはね返し、闘いを拡大させてきました。このように、県民は安倍政権の即決戦の思惑を打ち破り、持久戦に引き込み、今回の政治休戦に追い込んでいます。**県民は沖縄本島でいえば、一村を除く全ての市町村で辺野古支援の「村民会議」「島ぐるみ会議」を結成してきました。**

このことは沖縄戦後史では初めての画期的な出来事です。私たちはこの休戦中にこの「島ぐるみの陣形」の内実をより豊かで強固なものにし、辺野古現場の阻止闘争の強化と展開で勝利の展望を切り開いていかねばなりません。

手を緩めてはならない！